

築地市場跡地利用ビジョン(中間まとめ)公表

～築地市場地区の活気とにぎわいビジョンづくり委員会～

去る9月21日(火)、「築地市場移転に断固反対する会」総会において「築地市場地区の活気とにぎわいビジョン(中間まとめ)」が公表されました。昨今の築地市場を取り巻く状況は、豊洲の整備や環状2号線が地上化へと変更される提案がなされるなど東京都による移転の動きが着々と進められています。

そこでこのビジョン(中間まとめ)では、断固反対する会の下命を受けて、東京都によって市場移転が強行された場合に備え、築地場外市場地域が将来にわたって活気とにぎわいが維持でき、あわせて銀座・勝どき・豊海・晴海をはじめとした中央区全体の活性化にもつながるよう提案を行うことを目標に検討されたものです。

今後、年内に最終報告をまとめ、東京都との協議を進めていくこととされています。

■築地市場地区の活気とにぎわいビジョン委員会検討内容

- (1) エリアゾーニングによる敷地利用
「場外市場と一体化した活性化エリア」、「用途や容積率を制限した地域貢献エリア」、「区のまちづくりと整合性ある高度利用エリア」に分けてゾーニングを検討する。
- (2) 「築地」を継承する鮮魚マーケットの新設
場外市場に近接して、プロが利用できる鮮魚マーケットを整備する。
- (3) 築地が持つ「食文化」を発信・継承する機能の整備
食の集積拠点から、今後の食産業を担う人材の育成・「食文化」の発信拠点としての機能を整備する。
- (4) 浜離宮との連携・接続・一体的利用
環状2号線による浜離宮と築地市場地区との分断を解消し、一体的に人が行き来できるよう工夫する。
- (5) 回遊性・連続性の確保(道路で分断されないまちづくり)
- (6) 水際の開放、魅力ある散策空間づくり
- (7) 水上交通拠点の設置
- (8) 街に魅力と活力を生み出す都市観光機能の集積
都市観光の目玉となる機能の導入
周辺の都市観光拠点(銀座・歌舞伎座周辺等)との連携



■築地市場地区の活気とにぎわいビジョン検討経過

平成16年	5月17日	ビジョンづくり委員会準備会	委員会の設立趣旨について 主な検討事項について
	5月24日	築地市場移転に断固反対する会	ビジョンづくり委員会設置を承認
	6月 3日	第1回ビジョンづくり委員会	ビジョン検討にあたって 場内市場用地において今後 必要となる機能(案) 臨海部全体のまちづくりの考え方
	6月17日	第2回ビジョンづくり委員会	将来ビジョン策定にあたっての論点
	7月 8日	第3回ビジョンづくり委員会	食の中心としての築地市場の役割・あり方 ビジョン構築に向けて
	7月22日	第4回ビジョンづくり委員会	築地ビジョンづくりにおける基本的な考え方 将来ビジョンに向けた取り組み
	8月19日	第5回ビジョンづくり委員会	築地ビジョン中間まとめ(案)について
	9月 9日	第6回ビジョンづくり委員会	中間まとめ(案)「世界に誇れる都心 であり続けるために」について
	9月21日	築地市場移転に断固反対する会	ビジョンづくり委員会 中間まとめ を報告

築地トピックス

築地市場 水産仲卸 900 軒 一斉引越し ～9年ぶりの店舗移動～

今年の5月2、3、4日の3日間（ゴールデンウィーク）を利用して、築地市場内、水産仲卸売りの店舗移動が行われました。実に9年ぶりの店舗移動です。従来は4年毎に行われていましたが、9年前（前回の店舗移動）は、現在地建替による市場整備を進めていたため、前回の移動が最後となるはずでした。その後、東京都が市場の豊洲移転へ方針転換したため、豊洲移転まで現在のままでは不公平との声から店舗移動を行うこととなりました。

現在の水産仲卸は約900社・1600コマの店舗区画があり、鑑札売買によって店舗区画を拡大縮小したり、くじ引きによって店舗配置を決めています。

今回も、この3日間でこれまでの店舗の解体、新しい場所による店舗の組み立て、看板・設備・電話等の工事など、数千人の市場・工事関係者によって行われました。

上段：解体された店舗瓦礫の山

下段：新しい場所での店舗組み立て作業



史跡探訪 ～江戸時代から明治時代の築地市場周辺地～

都市の人口増加に伴い取扱量や業者の数が増え、さらに不衛生な状況から公設の卸売市場整備の声が高まり、大正12年3月、「中央卸売市場法」が制定されました。直後の大震災の直撃により、江戸時代以来続いた日本橋河岸・魚市場は閉鎖され、芝浦を経て昭和10年2月に海軍省跡地を使って市場が開設されました。

■天下の名園跡地 ～浴恩園～

築地市場は、江戸時代中期、陸奥白河藩松平定信の下屋敷でした。下屋敷内には、江戸湾に臨み風光明媚で林泉の美に富んだ池泉回遊式庭園がありました。名を「浴恩園」と呼び、池には水門が整備され、海水を江戸湾から取り入れた潮入の池などが造られていました。



浴恩園石苑の図（中央区立京橋図書館所蔵）

■海軍発祥の地 幕府の軍艦操練所から海軍省の海軍操練所へ

築地市場は、江戸時代末期、幕府の軍艦操練所でした。明治維新後、海軍省の管轄に置かれ、海軍省や海軍操練所（海軍兵学寮の前身）が設置されました。明治5年、海軍本省が旧尾張藩邸に置かれると、浴恩園内の築山の上に「海軍卿旗」が掲揚されました。現在も海軍発祥の地として「旗山」と刻まれた石碑が水神社前に建っています。



■日本初のホテル発祥の地 ～築地ホテル館～

明治元年、築地居留地（現在の市場駐車場棟付近）に日本で最初のホテルが開業しました。ホテル館の敷地は約7000坪。建物は木造二階建て。中央には3層の展望塔が取り付けられ、高さは地上18メートル（現在のビルの7階の高さ）、間口73メートル、奥行きが61メートルもあって、延床面積は約1600坪ありました。和洋折衷で客室102室、1室が10～20坪の広さを持ち、暖炉があり、風呂はシャワーつきでした。バーやビリヤード室もありました。



東都築地ホテル館之図（中央区立京橋図書館所蔵）